

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【公開番号】特開2003-245830(P2003-245830A)

【公開日】平成15年9月2日(2003.9.2)

【出願番号】特願2002-48206(P2002-48206)

【国際特許分類第7版】

B 2 3 P 19/00

B 2 3 P 21/00

【F I】

B 2 3 P 19/00 3 0 1 H

B 2 3 P 21/00 3 0 6 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月17日(2005.1.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

円周方向で所定の角度ピッチでその磁気特性が交互に変化するパルス生成環と、当該パルス生成環が固着された環状の芯金とを有し、転がり軸受の回転側軌道輪に装着されて当該回転側軌道輪の回転速度検出に供される複数枚のセンサロータを積層保持する治具であって、

前記芯金が外嵌する非磁性体を素材とした保持筒を備えたことを特徴とするセンサロータ保持治具。

【請求項2】

円周方向で所定の角度ピッチでその磁気特性が交互に変化するパルス生成環と、当該パルス生成環が固着された環状の芯金とを有し、軸受の回転側軌道輪に装着されて当該回転側軌道輪の回転速度検出に供される複数枚のセンサロータを積層保持する治具であって、

前記芯金が内嵌する非磁性体を素材とした保持筒を備えたことを特徴とするセンサロータ保持治具。

【請求項3】

前記保持筒が紙または合成樹脂を素材としたことを特徴とする、請求項1または2記載のセンサロータ保持治具。

【請求項4】

前記保持筒が透明な合成樹脂を素材としたことを特徴とする、請求項2記載のセンサロータ保持治具。

【請求項5】

隣接するセンサロータ間に介装される非磁性体を素材とした環状または円板状のスペーサを備えたことを特徴とする、請求項1～4のいずれか一項に記載のセンサロータ保持治具。

【請求項6】

前記スペーサが紙または合成樹脂を素材としたことを特徴とする、請求項5記載のセンサロータ保持治具。

【請求項7】

各センサロータの向きを揃えて、軸心を一致させて直に積層させた時に、センサロータ

のパルス生成環とパルス生成環が固着された環状の芯金とが当接しない寸法関係になつて  
いることを特徴とするセンサロータ。

**【請求項 8】**

センサロータの搬送工程あるいはハブユニット軸受の組立て工程において、請求項 1 か  
ら 6 に記載した保持筒を用いたことを特徴とするハブユニット軸受。